

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174200204		
法人名	別海厚生企業組合		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	北海道野付郡別海町別海鶴舞町6-45		
自己評価作成日	平成28年1月28日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者への対応は、丁寧に利用者本位に考えられるよう取り組んでいる。
職員間のチームワークを高め、情報の共有に努めている。
月に一度の勉強会は、講習等を受けた職員が担当し知識を高めている。
「利用者が喜んでもらえることは何か」、探り実現できるよう職員全員が意識している。
ホール内を空にしないことを職員全員の目標にし、利用者の安心、安全につなげている。
ホールを離れる時には、必ず声の掛け合いをすることをルールとして徹底できている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0174200204-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成28年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームすずらんは、開設から11年目を迎える2ユニットの事業所である。住宅地にあり、敷地内には畑があり利用者が様々な野菜を育てている。運営する法人は企業組合で、職員全員が組合員として法人運営にも関与していくという意識があり、毎年の総会でも理念等について共有を行っている。利用者への専門的な支援の提供だけでなく、地域との交流の機会を多く持てるよう取り組んでいる。公民館での行事への参加や、「フunderサービス」として地域の独居高齢者等との交流も継続しており、毎回70人前後の地域からの参加がある活動は、昨年の北海道新聞主催のボランティア奨励賞を受賞するなど、高い評価を受けている。職員は利用者の願いを叶えたいという思いから、独自様式の「生活シート」を作成し、利用者の何気ない一言を大切に、思いをくみ取るよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	読み合わせを行いながら、常に理念に沿った取り組みを実践していることを継続している。	法人理念と系列グループホーム共通の目標があり、事業所内に掲示されている。法人全体で行う職員総会で定期的に周知が行われ、日常のケアの中で活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として、長年ボランティア活動をおこなっており地域にとって不可欠な存在となっている。地域からも認められている。	法人理念でも地域との交流を挙げ、職員が個人的に持っている地域との接点を端緒に、利用者との交流の場を広げている。地域の催しに出かけることも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に高校生対象に、勉強会等の取り組みや訪問ボランティアとの積極的な交流で認知症の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、主に利用者との交流を中心にして、気づいたことや感じたこと等を話し合っている。	運営推進会議は定期的開催している。そば打ちや地域の記録フィルムを利用者と一緒に鑑賞するなど、参加者に利用者の様子を知ってもらい、交流を目的として開催している。	運営推進会議は家族全員に呼びかけているが参加が少なく、地域や行政からの参加も少ない状況となっている。会議の内容も交流行事が中心となっていることから、運営に関する情報の共有や意見の聴取なども取り入れていくことが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成16年からの関係性の中で、十分に理解し合い協力体制が行えている。	他事業所のサービスの規模縮小に伴って、行政と協力して利用者の受け入れを行っている。また、職員の処遇改善に取り組み、行政からの助成も受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては全員が理解し、取り組んでいるが、その必要性もない日常を行ってきている。	身体拘束を行わないことを明示しており、職員にも浸透している。身体拘束を排除するためのマニュアルがあり、外部研修にもできる限り職員を派遣し、職員の伝達研修を行うことになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会等で学び合っており、見逃さない様一人ひとりが意識し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、積極的な研修の取り組みをおこなっており、必要がある時には説明をおこない、話し合う機会もつくっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得していただけるよう時間をかけておこなっている。又契約時以外でもいつでも疑問点を話してもらえるように伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望がある時には、常に真摯に受け止め反映させるよう努めている。関係機関に問い合わせるなども行っている。	事業所便りを毎月発行し、写真で利用者の様子を伝えている。家族の来訪時には管理者や主任が話をするようにし、意見等を聞くようにしているが、意見等は寄せられていない。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当法人の仕組み自体が、職員一人一人が組合員という立場であるため、常に意見が反映されている。それ以外にも年に一度は個人面談あり。	職員は法人の組合員であり、経営にも参画していくという意識がある。年1回理事長面談があり、退職に繋がらない職場環境の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場をめざして、職員の声を吸い上げながら、整備をしている。今後にも必要な場合は整備していく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度のミーティング時には、勉強会を取り入れ、必要な内容を加味して望んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種の関係機関との交流を積極的に取り入れ交流の機会を増やす努力をしている。常に新たな交流先を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にとって、必要な情報を、本人、家族関係機関から情報を集めながら安心できる材料を数多く取り入れる努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時又利用開始後であっても家族の声には、耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本位としての立場であるため必要なことは行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人としての当たり前な関係で接するようにしている。(スタンスとしては、できない部分を手伝わせてもらう。)		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	人と人としての当たり前な関係で接するようにしている。(スタンスとしては、できない部分を手伝わせてもらう。)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報を集めながら、できる限りつなげることができるようになっている。	入居前に暮らしていた場所への訪問の希望を家族にも伝え、介護計画にも掲げ、準備を行っている。利用者の生活歴などに合わせた支援と共に、老人クラブとの交流も予定されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の助け合い声の掛け合いが、現在も増えてきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも、立ち寄れる関係作りをおこなっている。(現に訪ねてくれている)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報が少ないこともあるが、利用者本位の検討は常に行っている。	利用者ごとに担当職員が決まっており、利用者のつぶやきなどから気持ちをくみ取り、申し送りで共有している。毎月行う利用者の「生活シート」にも記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り、知りたい気持ちが職員全員がもっており、家族からの聞き取り等の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人本位で考え方の中で、できること、できないことを見極め、できることを増やす視点で関わっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの関連な意見を多く取り入れ計画に取り組んでいる。できるだけ具体的な計画にできるように取り組んでいる。	毎月のユニット会議で利用者の状況を検討し、半年ごとに計画を見直している。サービス担当者会議では、利用者の思いを叶えるための支援について、職員全員で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやミーティングの際のケースカンファレンスを通して情報を共有している。記録用紙も短時間で正確に記入できる様工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日その日その日の利用者の状況に合わせて、柔軟に支援している。又職員からの意見も多くある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる地域資源を常に模索している。現在では少ないと感じているが、今後も検討していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域柄選べる病院がなく決まった病院との関係であるが、ケアマネージャーが間に入るなどしておこなっている。	地域の医療機関が限られているため、家族の通院同行が難しい場合には、職員が町立病院への通院を支援している。事業所の看護師が、適切な受診ができるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎回看護師には、日頃の状況を伝え判断が必要な時はアドバイスをもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の希望もあり、入院期間は極力短くできるようにしているが、時には病院の都合で治療半ばで退院してくることもあるが、病院との連携は図れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から家族とは重症化についての話し合いを行っている。又都度利用者の状態に合わせてお互いが納得できるようにしている。又関係機関との連携も念頭においた計画を立てている。	地域医療の状況により医師の確保が難しい場合なども含め、契約時に家族に事業所の方針を伝え、同意を得ている。全職員が利用者の望む最期についても把握しており、その時々で話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導や、救急救命講習等で実践力を身につける努力をしている。又急変時にはすぐに救急搬送をおこなうよう全員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練をおこない、全職員が把握できるようにしている。地域の合同訓練や、消防署、関係機関とも連携して行っている。	年2回夜間想定で避難訓練を行っている。消防団との合同訓練も行っている。備蓄も3日分を準備し、雪害時には行政から被害状況の確認があるなど連携体制も築かれている。	訓練は定期的に行われているが、近隣住民の参加がない状況が続いている。火災などの一刻をあらそう非常時には近隣住民の協力が不可欠となるため、運営推進会議での検討や、訓練時の呼びかけを継続的に行って行くことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや言葉使いは、誇りを損ねないように気をつけている。失礼にあたる表現の時にはすぐに対処している。	利用者が自尊心をもって生活できるよう、生活歴や習慣などを尊重し、利用者同士で尊重できるよう職員が関係を取り持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を引き出せるような、関係作りをおこなっている。声かけの際には、自分で選ぶ機会を多くつくれるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、情報を知りたい気持ちが職員全員がもっており、家族からの聞き取り等の情報収集に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみに注意を払い、日常もおしゃれを楽しめる時間を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみの上位にあることを自覚し、一人ひとりの好み等を知る努力をしている。野菜の下ごしらえ、配膳等も手伝っていただくことあり。	献立は食事の度毎に決めている。利用者と共に食材の買い出しをしたり、その時に食べたい物のリクエストを取り入れている。旬の食材や畑で収穫した野菜が食卓に上っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排泄を紙面により共有し、すべてが不足にならないようにしている。他の物を代用することも多々あり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前食後すべて、口腔ケアをおこない、口腔内のチェックもおこなっている。必要な時には、すぐに歯科受診対応行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、排泄の時間や排便機関などを把握している。トイレでの排泄が行えるよう意識しておこなっている。	入居時にオムツを使用していた利用者でも、排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行い、リハビリパンツの使用などに移行している。夜間は安眠や安全のためポータブルトイレも活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	すべての状況を加味しながら、便秘にならないような、支援をおこない、薬に頼りすぎないケアを心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意向に沿ったケアを行っている。希望があればいつでも入れる準備はしている。	利用者ごとに一日おき、又は毎日入浴を実施している。羞恥心に配慮し同性介助での入浴や、利用者のタイミングを尊重し、夜間の入浴にも希可能な限り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの習慣を大事にしたケアをおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てを暗記していないが、薬局から発行されている調剤明細をファイリングして確認しながらおこなっており、様子の変化はすぐに気が付けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から、関わるヒントを常にみつけきっかけづくりとしている。喜んでもらえることを職員が自らの楽しみともしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や買い物の希望はすぐに対応している。外へ散歩に出たい希望があるときには答えている。行事等の外出等は家族や地域の方によびかけるなどして協力を得ている。	一人での散歩を日課にする利用者もおり、近隣の見守りやルールを定めて安全に配慮している。事業所の畑に出かけたり、公民館での行事にも日常的に出かけ、閉じこもりがちにならないようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には、一人ひとりおこづかいを所持し買いたい物を購入するなどの取り組みをおこなっているが、機会は回数は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度必要な対応をおこなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるような、行事ごとの飾り付けに気をつけている。すべての空間は利用者にとってどうかを念頭において考えている。	事業所内は温度差なく暖房されており、加湿器が設置されている。ユニットごとに居間や和室、浴室の広さが異なり、利用者に合わせて利用することができる。カラオケなど、日中に皆で楽しむ設備がある。利用者の笑顔の写真や作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様々な場所にソファを配置し、気分に応じて過ごせるよう配慮している。気の合う利用者同士が居室に招いて過ごすこともある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムや家具等馴染みな物を取りそろえていただけるよう必ず声をかけている。	利用者の居室は洋室と和室があり、入居前の習慣などに配慮し畳に布団を敷いている利用者もいる。大型の造り付けクローゼットがあり、季節の衣料やこまごまとしたものを収納することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の困難場面は、全職員で話し合いを持ち自立に向けた工夫を行っている。		